

今月のトピックス

電源コード等に関する事故にご注意を！

(独)製品評価技術基盤機構に対して寄せられた製品事故情報のうち、ヘアドライヤーや電気ストーブなど家電製品で使用されている電源コード、テーブルタップやコンセントなどの配線器具の事故は、平成19年度から23年度の5年間に1,065件ありました。

事故は、「テーブルタップ類」で304件、「ストーブ」の電源コードで77件、「ヘアドライヤー・ヘアアイロン」の電源コードで70件発生しています。死亡事故が15件、重傷事故が5件発生するなど、重篤な被害が生じる場合もあります。

電源コードや配線器具は、本来、熱を発するものではないために、見た目では危険を察知しにくく、使用者が誤った取り扱いを続けることで火災につながるおそれがあります。特に暖房器具など消費電力の大きい電気製品を多く使用する冬場に事故件数が多くなっていますのでご注意ください。

NITE((独)製品評価技術基盤機構)<http://www.nite.go.jp/jiko/press/prs12101802set.pdf>

【事件事例】(事故原因はいずれも推定)

- 電気毛布の電源コードが介護ベッドの安全柵に巻き付けられて使用されていたため、コードにストレスがかかり、半断線状態となりショートして火災が発生した。
- テーブルタップに定格電流を超える電気製品を接続したため、差し込みプラグ内部のコード芯線のカシメ部が異常発熱したことにより、断線・スパークが生じて発火した。
- エアコンから漏れた水がエアコンの下に置かれていたテーブルタップの内部に侵入したことにより、トラッキング現象が生じ、テーブルタップが発火した。

【使用の際の注意点】

- コードを繰り返し折り曲げる、ねじる、束ねる、上から重いもので踏みつけるなどといった、コードの芯線の断線につながるような使用はしない。
- プラグを抜くときはコードを引っ張らず、必ずプラグ本体を持って行う。
- プラグとコンセントやテーブルタップの間に溜まったほこりや汚れは取り除いて使用する。
- 水分によってショートしたり、洗剤等の成分によって被覆が劣化するおそれがあるため、水、洗剤、調味料などがコンセントやテーブルタップにかかったときは、使用をやめる。
- テーブルタップに家電製品を接続する際は、表示された定格消費電力を超えて使用しない。
- 電源コード、配線器具を分解したり、改造しない。

石油ストーブによる事故(再注意喚起)

平成24年10月18日、(独)製品評価技術基盤機構により石油ストーブによる事故に関して注意喚起が行われ、使用の際の注意点について当ニュースのvol.46でもお知らせしました。

しかし、その後も石油ストーブに関係した事故が18件(うち、5件は死亡事故)発生していることから、本年1月24日、再度注意喚起が行われました。

下記のホームページを参考に、改めて石油ストーブを使用する際の注意点をご確認ください。

- NITE((独)製品評価技術基盤機構)注意喚起資料
<http://www.nite.go.jp/jiko/press/prs13012402.html>
- 製品安全ニュースvol.46
<http://www.nagano-shohi.net/pdf/seihin-vol.46.pdf>

◇ 平成24年12月の重大製品事故公表情報については、消費者庁のホームページをご覧ください。
(<http://www.caa.go.jp/safety/index.html>)

【発行】長野県 企画部 消費生活室

電話 : 026-223-6770

ホームページ : <http://www.nagano-shohi.net/seihin-anzen/>